

第77号 「空気」

令和2年6月22日

空気がなければ人は呼吸できません。音も伝わりません。我々は、人類の営みに必要不可欠なこの空気を、普段は意識すらしていないと思います。その目に見えない無色透明の気体を分析し、それに「空気」という名前を付けた先人に、私は畏敬の念を抱きます。

辞書によると「空気」とは、「①地球を包む大気の下層部分を構成する無色透明の混合気体。高度80キロメートル以下ではほぼ均質で、水蒸気を除いた乾燥空気の組成（体積）は、窒素78.09%、酸素20.95%のほか、アルゴン・二酸化炭素・ネオン・ヘリウム・クリプトン・キセノンなどを微量に含んでいる。②その場の状態や気分。雰囲気。また、社会や人々の間にみられるある傾向。」と記してあります。

私は、自分が学んできた音楽そして仕事としてきた教育において、相手と共有する「時間」と「空間」を大切にしてきました。音楽も教育も、相手の反応を見ながら様々な対応をします。これが演奏や授業の最大の醍醐味であり、そこに自分の力を実感したり、やりがいを感じたりするのです。空間を共有することによって感じる「空気感」を感じることができなくなった時には、音楽も教育も、そして私の存在価値もなくなってしまおうのではとまで考えています。

この度のコロナ禍において注目されたものの一つに、オンライン〇〇があります。たとえば、オンライン授業、オンライン会議、はたまたオンライン飲み会なるものも登場しました。パソコン操作の苦手な私の人生には存在しなかったことですし、意識さえしたことの無いもの、いや、無意識のうちに拒否してきたものだったかもしれません。確かに、効率面からすると非常に有効的な手段で、コロナ対応を機に導入が推進され、今後の社会において必要となることは間違いありません。しかし、私は今までの経験から、非効率的なことや無駄だと思えることの中にも、人間としての成長を促すものが多々あると強く感じています。

音楽は空気の振動である音を通して人の心を揺り動かします。人の言葉も面と向かって話す方が心に響くと私は信じています。今後は人工知能やロボットの進化によって、効率やスピードをますます重視する社会になっていくと思いますが、音楽や教育においては、「時間」「空間」「空気」「心」「感情」等の見えないものを大切にし、それを共有することの意義を常を感じる世界であってほしいと思っています。ただし、古いものにばかり固執するのではなく、新しいものも取り入れていかなければなりません。変化が激しく見通しの立たない今だからこそ、不易流行の考え方を大切にしなければならないと考えます。